

「家庭科室家具の歴史についての講演と見学」

(株) 西尾家具工芸社の誕生から現在までの家庭科製品の歩み

株式会社西尾家具工芸社 東京支店取締役支店長 福家 清純

弊社先代社長西尾長利は昭和23年3月に6年間の教員生活から別れ、西尾家具工芸社を30歳で起業し、大阪府下で主に学校家具の製造販売を始めました。

当時の営業経歴書にはユニットキッチンが文化流し又は東京式文化流し、食器戸棚は水屋として販売していた記録が残っております。

終戦後間もない日本の台所は、暗くて大きな釜戸が中央に有り、非効率で不衛生でした。また、男女の不平等を改める民主主義教育目的の一環として、GHQのC.I.E (民間情報教育局教育改革) 指導員の紹介によるホームプロジェクト (H.P)、家庭クラブ活動 (H.C) 等を家庭科の授業に取り

入れ、女生徒自らが各自家庭の台所の改善点等を提案し、教材用モデルキッチンを兼ねた調理実習台を考案し、業者に納品させた様です。

しかし、このユニットキッチンは多人数の生徒に授業で調理を教えるには不便でした。生徒は調理実習中壁面に向き、実際に流しや調理台で作業できる人数は2~3名で、又先生から見ると背面となり、作業中の手元も見難く改善の必要がありました。



この改善策として、ユニットキッチンを教室の中央に背中合わせに島状に置き、流し、ガス台に改善を加え、日本で初めての学校用の理想の共同調理台第一号が昭和26年に完成しました。

この形式の共同調理台が現在も その時々器具や構成材料を組み合わせてながら製作されています。

学校用共同調理台は、昭和30年頃の燃料革命 (プロパンガスが日本中に普及) から各学校に納入し始まり、それまでのユニットキッチンはモデルキッチンとして、教室の前後に一台か二台を配置する様になりました。

この時代、材料にも大きな変化がありました。昭和32年に業界で初めて、学校家具にメラミン化粧板を採用しカラフルにして、丁番にも工夫を凝らし、女生徒が主に使用する調理台のデザインを一新しました。

これまでのユニットキッチン、共同調理台はTOPにモルタル造りの人造研ぎ出し又はタイルを使用しており、重くて運送中に欠けたり割れたりする為、流し、ガス台はステンレスに、調理台はメラミン化粧板が使用されるようになり、その後35年頃には全面をステンレスのアルゴンガス溶接加工 (厚さ1.0~1.2mm) を標準仕様とし、現在も同様に製作しています。

一方、木部も主材は檜の框組 (枠組みの中に合板を組み込む) からプレスを使用するフラッシュ加工となり、掃除がし易くなり、又扉にメラミン化粧板を使用する事でカラフルな新感覚の調理台に変わりました。

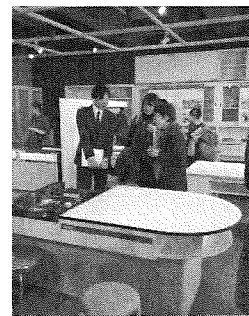
昭和36年 折りたたみ式水栓の考案により、流しに天蓋の要望が多かった小学校家庭科調理実習台の多目的使用、中学校では試食目的のため、飛び出た蛇口を流し内部に収納する事で一気に解決し、調理台だけでなく、理科関係の多くの実験実習台等にも活用されています。

昭和40年代初期、調理台とガスコンロの間に料理用食材が落ち不衛生と成るのを防ぐ為、ガスコンロを調理台に内蔵してビルトインにした事で、衛生的ですっきりとした調理台が完成しました。しかし調理台とガス台の間に何も界が無い為、調理器材をコンロ近くに置き、焦がす等のトラブルが発生し、この機種は5年で製造を中止しました。

同時期、小学校用多目的実習台として、流しとガス台を背面で合せサイドに広い作業スペースを設け、下にオープン棚を付け比較的安価な

新タイプを考案いたしました。

今までの共同調理台は流し、調理台、ガス台と並びますが調理実習中に鍋に水を入れたり又ガスコンロからお湯を流しに捨てる時の危険性を少なくする目的



と、流しガス台に天蓋をして多目的に使用する時も一枚の天蓋でカバー出来、より簡便にしました。

この形式が50年代に入り料理学校で調理台を半円形にして採用され、大変好評となり、現在は学校、公民館、保健施設等で調理台TOPを人工大理石にして多く採用されています。

被服教室では、裁縫機のサイドに脚踏みミシンを置く形式からポータブルミシンを裁縫機にセットして、一人で一台又は二人で一台の電動ポータブルミシンを使い、生徒が移動せず作業能率を上げる為の工夫を凝らした新規規格商品を昭和42年のカタログに掲載しました。

材料面では檜材に翳りが出始め、アポロ計画 (1961~1945) で開発されたダップ樹脂による当社のオリジナル合板を作り、各製品に採用し現在でもこの時代の調理台等を使用している学校があります。この材料は電気絶縁性、耐熱性、耐湿性、耐候性等に優れ60年代まで使用しました。

昭和60年頃からパーティクルボード (木材をチップにし接着剤と混合、高温高压で固めたパネル) が主流になり、現在では世界中で大量生産用の家具材料として使用されています。

平成9年地球温暖化防止京都会議 (COP3) にてCO₂ 6%削減の内3.8%を森林の整備にて賄う事が国の方針となりました。当社は家具工芸社と言う名前の通り、無垢の木ぬくもりを子ども達に教材として活用して頂く事を希望しており、平成13年「木製家具のぬくもりを子供たちへ」から新規事業「ならのこプロジェクト」を発足させ、「こどもたちに良質を」をテーマに、その一つで展示場でご覧頂いた、松の間伐集成材を使用したウッドイーシリーズの調理台等に取り組んでいます。

会社創業から65年「教育に貢献すること」が私たちの永遠のテーマです。

西尾家具工芸社ホームページ (<http://www.nishio-jp.com/>) をご覧いただければ幸いです。